

高岡開町400年記念 高岡老舗100年展

老舗。
それは、高岡の宝。



高岡商工会議所 高岡老舗会

高岡開町400年記念
高岡老舗100年展

会期：平成21年8月1日[土]～10月18日[日]

場所：高岡市立博物館

■主催／高岡商工会議所 高岡老舗会

◎共催／高岡市、高岡市教育委員会、高岡市立博物館、高岡開町400年記念イベント実行委員会

◎協力／高岡市美術館

◎後援／北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞北陸支社、北陸中日新聞、北日本放送、富山テレビ放送、
チューリップテレビ、NHK富山放送局、高岡ケーブルネットワーク、ラジオたかおか

目 次

ごあいさつ	3
高岡開町400年と老舗	4
高岡老舗会	5
出展事業所紹介	6
高岡の老舗分布図	31
出品目録	32
参考文献	40

※本書は高岡商工会議所、高岡老舗会が主催する高岡開町400年記念事業「高岡老舗100年展」の展覧会図録である。
※史料写真下のデータは、史料名・年代・寸法(表記のない場合 縦×横、単位cm)である。

ごあいさつ

高岡商工会議所 会 頭 南 義 弘

高岡商工会議所では、高岡開町400年記念事業として、ここに「高岡老舗100年展」を高岡老舗会の全面的なご協力により開催できましたことを厚くお礼申し上げます。

この老舗展の開催については、平成19年2月の高岡老舗会発足当初から構想が浮かび、平成20年度から開催に向けた企画内容の検討や、展示物選定のために老舗会の会員47社の事業所訪問を重ね、高岡市立博物館の学芸員や高岡市文化財課の専門家の指導を頂きながらその準備を進めてまいりました。

ご承知の通り、高岡の町は慶長14年（1609）、加賀藩2代藩主前田利長公によって開かれ、その際に鋳物師や指物師をはじめとした職人や商人を高岡へ招き、特権を与えて産業の振興に尽くしました。

しかし、高岡入城後わずか5年余りにして幕府による「一国一城令」が下され、高岡城は廃城となり武士や町人達は離散し、急速に高岡はさびれていきました。

3代藩主利常公は兄利長公の遺志を継ぎ、高岡の町民の流出を防ぐために、宅地の無償提供や地代免除をはじめ産業奨励のための数々の保護と特権を与え、高岡を「城下町から商工業の町」へと転換を図りました。このような政策と商業活動が今日の高岡発展の礎となり、美術工芸、経済流通の主要都市として今日まで成長してまいりました。

老舗はそれ自身が高岡の顔であり、高岡の商工業における顔でもあります。今回の展示は、江戸時代から明治期に創業し、100年以上の長い歴史を有する「老舗」といわれる高岡の商家に伝わる史料を展示紹介するものです。

店頭看板や各種道具類、下図や写真、法被、暖簾など高岡の歴史を物語る数々の展示物をご高覧いただき、高岡の「町衆文化」をご理解いただく一助となれば幸いです。

結びに、高岡老舗100年展の開催にあたり、貴重な史料を提供いただきました高岡老舗会の皆様をはじめ、開催にご協力いただきました高岡市立博物館ほか、関係各位のご理解とご支援に対しまして厚くお礼申し上げますとともに、次なる100年に向けて高岡市の益々の振興・発展を念願し、ご挨拶といたします。

高岡開町400年と老舗

慶長14年(1609)9月13日、加賀藩2代藩主前田利長公、高岡城入城。これが、高岡の始まりです。

利長公は、城下町の繁栄を図るため、職人・商人を招き、土地を与え、税金を無料にします。金屋町の鋳物業、川原町の魚鳥商売、檜物屋町の指物・漆器などの重要な職業には、数々の特権を与えました。

しかし、慶長20年(1615)、高岡城は一国一城令により廃城。利長公は前年に亡くなっており、高岡から武士や町人が離れていきました。3代藩主となった利常公は、高岡再生のため、問屋や蔵を設置し、北陸道のルートを変更するなど、さまざまな策を施します。

これにより、高岡は「城下町」から「商業のまち」へ転換し、百万石の台所といわれるほどの経済都市に発展していきました。

明治になり、高岡は富山県の商都としての地位を築いていきます。明治18年(1885)、高岡米商会所を開設し、北陸の米相場をリードするようになり、明治22年(1889)には、市制施行により高岡市が誕生。鉄道の開通、伏木港の開港など、次々に整備されていきました。

明治33年(1900)、市街地の6割を焼き尽くした大火が起こりますが、山町筋の家々は、これを教訓に防火建築である土蔵造りの家を建て、復興を遂げます。

そして、昭和に入り、戦争へと進むなか、戦時統制経済により金属原料が不足し、銅器産業に打撃を与えますが、戦後、鑄造技術を活かしてアルミニウムで生活用品を生産するようになりました。

江戸時代から、明治、大正、昭和、そして平成。いくたびの試練を乗り越えながら、高岡は平成21年(2009)、開町400年を迎えました。

このような歴史を持つ高岡には、志をもって創業し、代々受け継ぎ、町の歴史とともに生きてきた商家が多くあります。利長公の産業振興策から始まる銅器や漆器に関わるものから、高岡の名産・特産、町の人々の生活に役立ち、暮らしを豊かにする品目まで、実に多彩な業種において、創業100年以上を誇る「老舗」が、今も市民の毎日を支え、また全国や世界へ、高岡を発信しています。

高岡老舗会

北陸の商都を築き、支えてきた高岡の町人たち。

「老舗」は、高岡開町400年の歴史と、商工業都市としての高岡を物語る存在です。この伝統と歴史を高岡のブランドとして発信し、高岡の魅力をアピールするため、高岡市において創業100年を超える老舗による「高岡老舗会」が発足しました。

高岡商工会議所の会員で、創業100年以上の事業所から47社が加盟し、平成19年2月にスタート。今回の「高岡老舗100年展」の開催のほか、さまざまな媒体における商品や製品の紹介や、他の老舗会との交流を図るなどの活動を展開し、ブランド発信と産業の活性化をめざします。

加盟企業は、高岡開町時よりの歴史を伝える家もあり、業種も銅器、漆器、薬品、印刷、食品、建材などの製造・卸・販売と広範囲にわたっています。

事業所名	創業	営業品目	事業所名	創業	営業品目
天野漆器(株)	明治25年(1892)	漆器製造卸売	(有)白石縫旗店	明治28年(1895)	旗・幕・祭り衣装一式
いせや	慶応元年(1865)	呉服小売	(株)高岡ホテル	明治38年(1905)	料理旅館
(株)老子製作所	明治元年(1868)	銅器・梵鐘製造	(株)高田卸方屋	天保11年(1840)	人形製造販売
大寺幸八郎商店	慶応 3年(1867)	金属工芸・作家オリジナル・クラフト	竹林商店	文化 8年(1811)	総合室内装飾
(株)大野屋	天保 9年(1838)	菓子製造販売	(株)谷道	明治28年(1895)	OA事務機器・家具・文具
(株)岡本清右衛門商店	宝暦 4年(1754)	肥料・農薬販売	槻橋屋	明治元年(1868)	和ローソク製造販売
(株)折橋政次郎商店	明治37年(1904)	防水工事	(株)中川金物	明治元年(1868)	建築板金工事・金物販売
(有)加藤外次郎商店	明治10年(1877)	鋳物副資材・炉材	中川サイクル	慶応 3年(1867)	自転車販売
(有)角久旅館	明治元年(1868)	旅館業	西田菓舗	明治14年(1881)	和菓子製造販売
金七産業(株)	明治11年(1878)	美術銅器卸売	(有)苗加製作所	慶応 3年(1867)	アルミニウム製品製造
(有)カマキチ	明治元年(1868)	給排水設備工事	能登総合燃料店	明治25年(1892)	木炭・白灯油・LPガス
北一(株)	明治元年(1868)	石油製品・各種フィルム	般若鋳造所	明治 3年(1870)	茶道具製造
(株)北林大佛堂	明治33年(1900)	仏具卸・小売	平田印刷(株)	明治38年(1905)	印刷業
(株)木屋	慶応元年(1865)	酒類販売業	(株)不破福寿堂	明治22年(1889)	菓子製造販売
京田仏壇店	慶応元年(1865)	寺院仏具・仏壇製造	(有)堀栄	明治26年(1893)	銅器鋳造業
(有)清都酒造場	明治39年(1906)	酒造業	(有)藪田屋	明治元年(1868)	葬儀業
(株)小泉製作所	明治22年(1889)	銅合金鋳物	(株)山内神仏具店	寛永 2年(1625)	神仏具製造販売
小間印刷(株)	文久元年(1861)	印刷業	(株)山口久乗	明治39年(1906)	仏具・美術銅器製造販売
ベビーブラザ サカキヤ	明治35年(1902)	育児用品・節句用品販売	山元醸造(株)	安永元年(1772)	味噌・醤油醸造業
佐野陶苑	明治 2年(1869)	茶道具・陶磁器販売	(株)やまはち	明治 2年(1869)	神仏具製造・寺院用仏具
澤川鍛造工業(株)	明治37年(1904)	鍛造業・金属機械加工	(株)横清	明治元年(1868)	鮮魚卸・水産加工
塩崎商衡(株)	享保年間(1726頃)	計量・計測機器販売	(株)若野鋳造所	明治10年(1877)	工作機械・産業機械製造
(株)志甫商店	宝暦 6年(1756)	繊維総合卸	鷺北機工具店	天保12年(1841)	機械・工具・金物販売
			和田屋商店	慶応元年(1865)	酒類販売業

加盟47社〈50音順〉

天野漆器 株式会社

あまのしっき かぶしがいいしゃ

業種／漆器製造卸売 創業／明治25年(1892年) 所在地／高岡市波岡245

天野辰次郎が、塗師塩谷半次郎に弟子入りし、その後、明治25年に川原上町にて独立。塗師から販売も手がけるようになり、漆器の製造卸商となった。

もとは、高岡の由緒町人の家であり、初代服部甚吉は、天正年間に前田利家公に仕え、文禄年間に利長公に従い富山に移ったときに、「天野屋三郎左衛門」と改名している。

大正中頃には二丁町に転居し、昭和44年に現在地に移転。創業より県外へ販路を拡大し、独自の作品により高岡漆器の名を高めた。



むきみかん火鉢

大正期頃／高30.0 径52.5

むきみかんの火鉢が高岡独特のデザインで人気を博す。



東京大正博覧会朱塗り記念盃(左)

大正3年(1914) 天野辰次郎・庄太郎の時代

工芸品展覧会優等賞(右)

明治44年(1911) 桐紋入り酒盃



大連勸業博覧会銅牌 大正14年(1915)

庄太郎の時代



鯛の菓子器

明治末期～大正／幅60.0

明治末から大正にかけて手くり鯛盆が盛んにつくられた。



高岡漆器の葉

昭和30年代～

高岡漆器の歴史や取り扱い方法について製品に添付。

大寺幸八郎商店

おおてらこうはちろうしょうてん

業種／金属工芸・作家オリジナル・クラフト 創業／慶応3年(1867年) 所在地／高岡市金屋町6-9

慶応3年(1867)に、初代が金屋町にて銅器鑄造業を始める。明治23年、近畿地方へ営業を開始。製造だけでなく販売も行うようになる。

戦時中は、銅の使用が禁止されたため、製造・営業を中断していたが、昭和21年、三協商会として営業を再開した。24年には、有限会社大寺幸八郎商店として法人化。その後、問屋町に本社を移転し、工場を設立している。

金屋町の「さまのこ(千本格子)」の家を活かし、茶房ギャラリーを開設するなど、文化・観光にも力を入れている。



旧店舗写真 大正期



家紋入り暖簾 戦後／128.0×134.0



店内陳列写真

大正～昭和初期
現在のショールーム。当時としては珍しい。



献上吊燈籠

昭和16年
高38.5 径24.0
製作の木型が残る。

業種／呉服小売 創業／慶応元年(1865年) 所在地／高岡市末広町14-33

初代は、伊勢領屋喜三右衛門家より分家独立した喜右衛門で、魚商人として慶応元年に創業した。料亭などに魚を納入していたが、魚の他にも頼まれれば納めていたところ、取扱商品が広がり、明治21年頃、3代の時に呉服屋へ転業。明治33年の高岡大火後、中川原町から宮脇町へ移転し、都市計画のため昭和31年に末広町の現在地に移った。

人間国宝の作品等を高岡、小松、滑川の博物館へ出品しており、高岡市の友好都市であるフォートウェーン市(アメリカ)にも展示資料を寄贈している。



店頭写真
昭和31年
旧店舗(宮脇町)。
この写真が撮影された後、
現在地へ移転。



花嫁のれん
昭和初期／150.0×160.0
高岡といでや染物店へ発注。

伊勢屋呉服店売出し用のぼり旗
昭和20年代後半／150.0×70.0
売出しの際に店先で使用。

株式会社 老子製作所

かぶしきがいしゃ おいごせいさくしょ

業種／銅器・梵鐘製造 創業／明治元年(1868年) 所在地／高岡市戸出栄町47-1

江戸中期に鍋、釜、火鉢等の製造をはじめ、主として梵鐘を手がけ、明治元年に屋号を老子とした。工房には、宮家の方々が三度来訪され、また人間国宝の香取正彦氏親子が、「広島平和の鐘」をはじめとする多数の名鐘をこの工房において製作。鑄匠老子次右衛門の名が世界に知られることとなる。

さらに、NC制御工作機械製造の技術を活かし、マイコン制御カリヨンやスイングベルにも実績を重ね、銅像、仏像仏具に加え、近年ではモニュメント、景観エクステリア材、社寺建築金物等新しい鑄物にも挑戦し続けている。



鉄飛龍紋香炉
明治末期
6代 老子次右衛門製作



擬宝珠
大正4年／高35.0 径18.0
7代 老子次右衛門製作

株式会社 大野屋

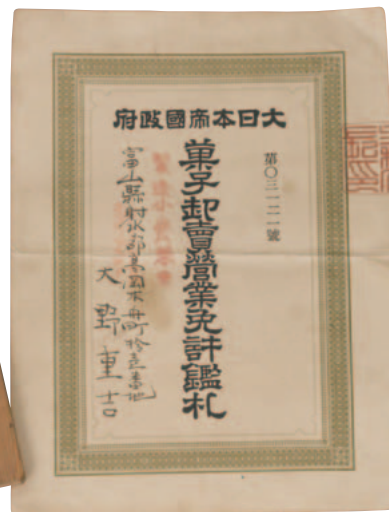
かぶしがいいしゃ おおのや

業種／菓子製造販売 創業／天保9年(1838年) 所在地／高岡市木舟町12

大門の地にて、代々醤油・味噌などの醸造業を営んでおり、天保9年(1838)、大門屋吉四郎が高岡の地に来て菓子製造業を始めたと伝わる。このため、大門屋吉四郎を初代としている。

高岡のどのあたりで創業したかは判明していないが、その後守山町に店舗を移し、明治10年前後に現在地の木舟町に移った。

屋号を「大野屋」としたのは、明治中期。昭和29年に、株式会社大野屋として法人化。現在は、9代隆一氏が当主である。



菓子仕入れ鑑札(表・裏)
明治18年
富山県射水郡役所より。

菓子卸売営業免許鑑札
明治18年
この頃に始まった菓子税納税の関係で、大日本帝国政府より大野重吉へ。



引札
明治17年
36.0×24.5
曆入り営業広告
お客様へ配布。

金華糖用菓子木型
明治期
竹の子
恵比寿
招き猫
さざえ

落雁用菓子木型
明治期
丸に木瓜
丸に橘



株式会社 岡本清右衛門商店

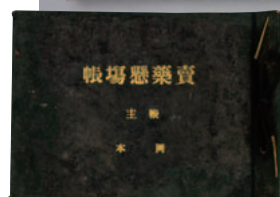
かぶしきがいしゃ おかもとせいえもんしょうてん

業種／肥料・農薬販売 創業／宝暦4年(1754年) 所在地／高岡市横田町1-2-3

初代清右衛門は、宝暦4年(1754)に、砺波郡大滝村(現福岡町)から高岡に移り、「福岡屋」という屋号で創業。千保川にかかる横田橋近くにあり、綿、布、売薬、肥料など手広く扱った。

3代は、藩の綿場買取役、町算用聞などの重職に任じられている。8代は、明治30年代、人造肥料の可能性に着目し、岡本清右衛門商店を設立するとともに、肥料の先駆的企業、兵庫県の多木製肥所の富山県総代理店となった。

昭和27年に、法人化。肥料、ゴルフ場資材などを取り扱っている。代々清右衛門を襲名し、現当主は10代になる。



売薬懸帳
昭和初期
各方面ごとに得意先の詳細情報を記入。



新濁硫酸株式会社絵葉書
過磷酸・配合肥料
完全肥料の新濁硫酸(株)の広告と工場写真。



多木肥料年賀葉書
明治期
多木肥料が特約店に
配布を依頼した年賀状。



「多木肥料」美人画ポスター
(復刻)
平成年代
72.5×49.5
急激な人口増加も、当社の化学肥料で
食糧増産が賄えるとのコピーがある。



多木肥料休息所写真

有限会社 角久旅館

ゆうげんがいしゃ かどきゅうりょかん

業種／旅館業 創業／明治元年(1868年) 所在地／高岡市大手町12-11

明治元年に、現在地にて創業。当初より、旅館業を営む。
旧北陸道筋にあたり、商人宿として栄えた。

明治33年の高岡大火で、建物が焼失。同地で、木造2階建ての建物を新築し、現在に至るまで使用。高岡大仏前の旅館として親しまれている。高岡を訪れた芸能人や関取衆などが多く利用し、宿泊だけでなく、高岡公会堂(現高岡市民会館)に弁当を届けたりもしていた。

「角久」の名前は、初代角屋久兵衛の二文字を取ったものとも、幾久しく栄えるようにと付けられたとも言われている。



高岡宿屋専業組合
営業人力車賃銭表

大正～昭和初期／40.0×55.0
宿泊客へのサービス。



法被

大正期／97.0×124.0

当家の娘が嫁入りの時、道具人足が
着た法被。お目出たいときのみ着用。



ふとん

150.0×150.0

絞り染めの客用布団。



外観写真

昭和初期

右にある車は木炭車。

金七産業 株式会社

かねしちさんぎょう かぶしがいいしゃ

業種／美術銅器卸売 創業／明治11年(1878年) 所在地／高岡市川原本町1-22

慶長16年(1611)頃、前田利長公が鋳物師を呼び寄せたのが始まりである。鋳物師7人衆の流れをくみ、江戸末期から明治初期にかけて、国内・国外に高岡銅器の名声を高めた金森宗七を祖に持つ。

鋳物職人から問屋へと業種が変わり、明治24年には、初代金森七次が、鋳物問屋の金森七次商店を設立。美術工芸品を主に取り扱った。

金屋町から小馬出町を経て、二丁町(現川原本町)に移転。平成4年に、金七産業株式会社となっている。



出荷帳 本帳 等
大正～昭和初期
この頃すでに日本全国で取引をしていた記録がある。



先々代の写真
大正末期
先々代の記念写真。当時としてはハイカラな傘を持つ。

有限会社 カマキチ

ゆうげんがいしゃ かまきち

業種／給排水設備工事 創業／明治元年(1868年) 所在地／高岡市波岡1108-1

初代金森吉左衛門は、金屋町にて鍛冶屋を開業。屋号を釜吉とし、代々、吉左衛門を襲名した。

昭和24年、それまでの釜吉鋳造所から、株式会社釜吉商店を設立。時代の流れのなかで、製造、小売、販売と業種を変え、取扱い商品も、鉄、鋳物、アルミ、プラスチックと多様化した。

会社組織も、合併・分社化などを経て、平成15年に、配管工事・建築工事に特化した有限会社カマキチとなる。金屋町から美幸町を経て、現在は波岡にて営業している。



貸鍋帳
昭和10年代
年間契約で鍋を農家に貸し出し、代金は米で物納。



瓶掛け用押し型
戦前
大量生産が可能となる。



法被
明治期／110.0×120.0
お客さんの接待用に使用。

北一 株式会社

きたいち かぶしがいいしゃ

業種／石油製品・各種フィルム 創業／明治元年（1868年） 所在地／高岡市丸の内1-10

明治初期に、初代が「室崎商店」を開業したことに始まる。その後、「北一商店」と改称し、明治30年に北一合資会社を設立。大正9年には北一株式会社に改組している。

当時は、小馬出町の土蔵造りの店舗で、綿糸布、畳表等の卸販売、石油類の卸小売を行い、ガソリンスタンドも経営していた。

戦後は、石油が主な取扱商品となり、昭和56年には、建設業へ進出。建築材料のフィルム等を取扱い、施工・販売を行っている。現在は、丸の内に本社を置く。



ガソリンスタンド写真
昭和6年 小馬出町で営業。



特約店看板
大正～
(左上)42.0×61.0 (他)39.0×53.0
当時の大手企業の日清紡績・倉敷紡績。



各勘定内訳書
大正年間
使用人履歴書 給料支払帳
任命原本(附 重役選任録)等
給与辞令
明治中期
俳人「筏井竹の門」が記す。

株式会社 北林大佛堂

かぶしがいしゃ きたばやしだいぶつどう

業種／仏具卸・小売 創業／明治33年(1900年) 所在地／高岡市大手町16-8

初代北林政吉は、仏壇の塗師をしていた。職人として製造に従事していたが、明治33年頃、販売も始めるようになり、仏具の卸・小売業を創業。

2代政雄、3代万治郎は、全国に仏具の卸を展開し、昭和42年に株式会社北林大佛堂を設立した。

創業より坂下町通りで店舗を営む。現在は、4代暢氏が継いでいる。



商品袋
戦後
京都の第一紙行で製作。



毎日香看板
戦後／60.0×90.0
日本香堂の前身である東京孔官堂の代理店。

株式会社 木屋

かぶしがいしゃ きや

業種／酒類販売業 創業／慶応元年(1865年) 所在地／高岡市坂下町1204

江戸時代初期には、加賀で木材を扱っていたが、400年前の前田利長公入城の頃、坂下町に居を構えたと伝わる。

慶応元年(1865)頃から清酒の製造・販売を行っていたが、明治33年の高岡大火で酒蔵を焼失。以後は、能登酒や灘酒の販売をする。大正時代には、麒麟ビールの富山県特約店となり、県西部に販売していた。

江戸時代には、当主は吉兵衛を襲名し、19代続く。その後、市左衛門となり、現在の当主は4代市左衛門を昭和61年に襲名している。



特大ボトル
昭和7年(複製は57年)
麒麟ビールが戦前に使用。
改めて復刻された。



拍子木
明治33年
「火の要心」と書いてある。



看板「麒麟麦酒株式会社
高岡荷捌所」
昭和16年／142.0×21.0

京田仏壇店

きょうでんぶつだんてん

業種／寺院仏具・仏壇製造 創業／慶応元年(1865年) 所在地／高岡市京町9-2

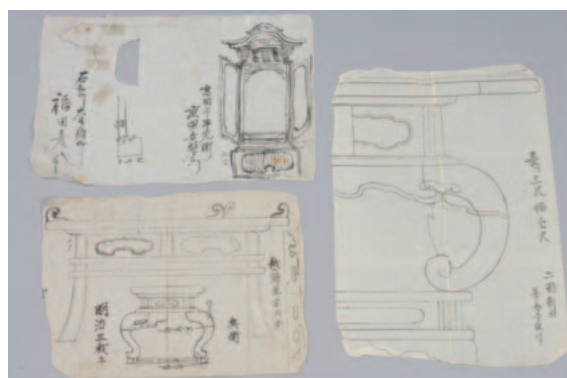
初代京田吉郎右衛門は、京田村(現駅南)の木挽屋吉蔵の養子となり、寺院仏具・仏壇の木地師として業を成した。檜物屋町で創業し、主に仏壇業大場商店(川原町)から受けていたと思われる。

3代京田重三郎の代で、塗師に携わり、木地は吉郎右衛門の弟子たちが行った。以後、木地と塗りの2業種で、現在まで至る。明治12年の大火災で建物が焼失し、本町へ移転した。

平成16年、勝興寺平成の大修理において、内陣仏具、下陣吊灯笼等の塗箔修理に携わった。



「京田仏壇製造商」看板 明治 中期／40.0×76.0



経机等の下図 明治期
初代吉郎右衛門が作成した下図。



飾り長押
明治期
仏壇内部の部品。



規型
明治期
仏壇や仏具製作用の
部分木型。



塗り仏壇
大正後期／高106.0 幅44.0 奥行32.0
勇助塗で、数多く高岡で作られていた。

有限会社 清都酒造場

ゆうげんがいしゃ きよとしゅぞうじょう

業種／酒造業 創業／明治39年(1906年) 所在地／高岡市京町12-12

明治39年、日露戦争の際、初代清都慶介は騎兵隊に所属。帰国後、造り酒屋を開業し、勝利を記念して「勝駒」と命名した酒造りを始める。

明治20年頃に建てられた主屋は、木造二階建ての切り妻造りで、昭和40年頃まで帳場や店舗として使用していたもの。その価値から、国の登録文化財に登録され、近世高岡の文化遺産群のリストにも加えられている。

「勝駒」は、全国及び金沢国税局の清酒鑑評会で、優秀賞等を数々受賞している。



德利 戦前 名入り德利 一升・二升入り



酒造り道具
昭和初期
もろみをかき混ぜる
ための道具。

ホーロー看板
昭和20年代
120.0×21.0
勝駒看板
販売店に配付。



通い桶 戦前
ガラス瓶が普及するまでの少量容器。



株式会社 小泉製作所

かぶしきがいしゃ こいずみせいさくしょ

業種／銅合金鋳物 創業／明治22年(1889年) 所在地／高岡市戸出栄町57-5

明治22年、初代長蔵が現在の大手町に「小泉屋」として創業。焼型鋳造による銅製置物の製作を始めた。以来、銅合金の鋳造及び加工を行う。戦時中は軍の統制のもと、小泉鉄工所と改称し、バルブや蛇口などを鋳造していたが、昭和38年、名称を小泉製作所とするとともに、美幸町に工場を設立。工芸品や工業製品等を製作する。昭和53年には、工場を戸出の高岡銅器団地に移転。昭和63年に法人化した。

新商品の開発にも意欲的に取り組み、平成19年、ガウディ作のグエル別邸(スペイン)正門の鐘の復元を担当した。



薪炭御帳 大正15年以降 燃料仕入先の中村商店発行
古文書 手紙 明治期～昭和 作業日記帳 御通



感謝状
昭和17年
多額寄付に対する
高岡市長木津太郎
からの感謝状。



原型
(鯛 恵比寿
老人)
未確認

小間印刷 株式会社

こまいんさつ かぶしがいいしゃ

業種／印刷業 創業／文久元年(1861年) 所在地／高岡市利屋町3

高岡の伝統産業である仏壇の製造に必要な金箔を提供するため、卸業を営む。文久元年(1861)創業。

明治期になって、紙卸業に付随し印刷部門を設ける。当時は、江戸時代からの木版と石版が主流であった。明治33年の大火で建物が焼失し、翌年小間印刷所として出発。

活字印刷は、製作費用が高額であり、大正期前後になって普及するが、鉛害を考慮して昭和39年に県内で2番目に全廃している。以後、平版印刷に変わり、現在ではDTP化が進み、コンピュータで製版を行うなど進化し続けている。



(左より)

メモ帳

孝子六兵衛のお話 再版

昭和54年

國乃光 第1号

大正10年

川原町 國乃光社発行 高岡市の情報、一般知識や雑学、市内小学生の文集も盛り込んだ当時の情報誌。

孝子六兵衛の傳 再版

昭和10年 修訂3版

高岡発汽車時間表・昭和4年休日表
昭和4年／51.5×66.5
石版印刷による。

ベビープラザ サカキヤ

べびーぷらざ さかいや

業種／育児用品・節用用品販売 創業／明治35年(1902年) 所在地／高岡市坂下町1216

明治33年の高岡大火の後、坂下町の現在地にて創業した。当時の坂下町には、勧工場と称した店舗が2カ所あり、そのひとつがサカキヤの前身となる。

当初の販売品は、衣料、雑貨、石鹸、和傘、洋傘など。季節物として、天神様、雛人形も販売していた。戦時中は、衣料品が統制され、軍需工場で働く人のための柳行李も取り扱った。

戦後は、ベビーブームが到来し、「初産婦の用品」(ベビーカー、乳母車、ベッドなど)を販売するようになり、児童の乗物、育児用品専門店として現在に至っている。



自転車(新品)
子供用ゴーカート

昭和40年代
店頭販売品



金銭登録器(レジスター)

大正初期

高44.3 幅37.0 奥行33.0

大正初期から昭和42年まで使用。



第1回店頭装飾競技会賞状

大正14年 4等賞

塩崎商衡 株式会社

しおぎしょうこう かぶしがいいしゃ

業種／計量・計測機器販売 創業／享保年間（1726年頃） 所在地／高岡市木舟町70

享保年間、源平板屋町にて、初代利平が指物屋次良右衛門と称して創業。指物道具や仏具・銅器などを扱った。

2代は、元文5年（1740）頃に木舟町へ移り、道具屋利兵衛と改名。5代利平は、明治後期から大正年間にかけて銅器商として活躍。海外への輸出、博覧会等への出品と受賞など、高岡銅器に大きな功績を残した。また、市議会議員等も務め、市政にも貢献している。

明治13年に、「尺度売捌きの免許」を取得。計量器の販売も始め、昭和47年から計量機器の専門商社となっている。

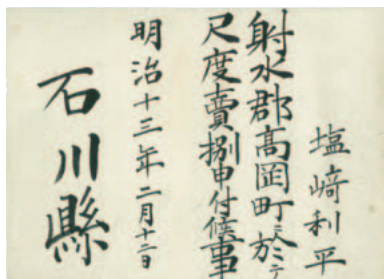


天秤はかり

江戸期／高73.0 幅70.0 奥行25.5
分銅20個が現存する。



道具屋利兵衛鑑札（表・裏） 嘉永4年（1851）
商売をするための免許証あるいは許可証。



度量衡販売免許 明治13年（1880）
石川県より塩崎利平宛。



セントルイス万国博覧会銀賞賞状
明治37年（1904）／55.0×66.0
高岡銅器組合 塩崎利平受賞



象嵌銅花瓶 明治末期
高40.0 径20.0 底に塩崎製の落款有り。



明治の銅器商の店頭写真
明治期
暖簾に「金物類 塩崎店」とある。

セントルイス万国博覧会
金賞銀賞の褒賞
明治37年（1904）
博覧会受賞金牌（左）
銀牌（右）



電話開通記念の封筒及びハガキ 明治40年
高岡で電話が開通したときの記念絵葉書と日付入りの封筒。



万国博覧会報告書 明治39年～大正期
博覧会参加の度に作成された報告書。

株式会社 志甫商店

かぶしがいいしゃ しほしょうてん

業種／繊維総合卸 創業／宝暦6年(1756年) 所在地／高岡市木舟町61

初代は、関屋三郎右衛門。その名から、屋号を「せきさん」とする。創業時、夫婦で提灯を灯し、夜明け頃、夫は外商に出かけ、妻は火を消して家路についたとの話が伝わる。

4代三郎右衛門は、綿布、洋反業を興し、中興の祖といわれる。5代三郎平は、家業を継ぐとともに、高岡市議会議員として28年余り市政に貢献し、議長も6期務めている。

現在も、綿布の染加工、のれん製造など繊維総合分野を取り扱っている。



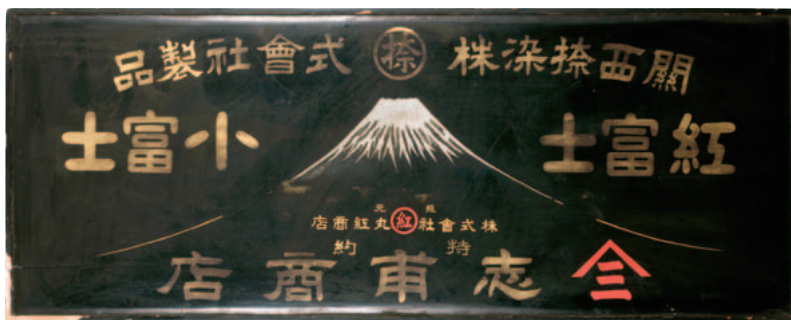
看板(小供印)
明治後期／61.0×91.0
染質堅牢 小供印 専用商標 発売元志甫商店



木綿染仕入屋合札
元治元年(1864)
高岡の木綿染物業界の年行司鑑札。



木綿染地卸関屋名入巻き板
明治期／41.5×21.5
小巾反物(呉服)の巻き板。



看板「紅富士 小富士」
大正後期／60.5×152.5
関西捺染株式会社製品 株式会社丸紅商店特約
志甫商店



写真(5代 志甫三郎平と
町内衆との記念写真)
明治期
当時の経済界の重鎮が1枚
の写真に。



写真(葬式)
明治
5代 志甫三郎平の葬儀。



写真(日常生活) 明治期

有限会社 白石縫旗店

ゆうげんがいしゃ しらいしぬいはたてん

業種／旗・幕・祭り衣装一式 創業／明治28年(1895年) 所在地／高岡市堀上町10

刺繍職人だった初代が、片原横町にて明治28年に創業。和服の刺繍に技を発揮していたが、やがて旗の刺繍や祭礼用品の刺繍も手掛けるようになり、今日の旗・幕・祭礼用品の加工・販売業へ至る。

県の諸官庁や社寺に旗や幕を納入。また、学校等の校旗・ステージ幕なども納めている。高岡御車山をはじめ、伏木、石動、新湊の各曳山の幕・旗・衣裳を製作。県出身の力士の化粧回しも製作した。



獅子舞衣装 (大人 子供)
胴幕
戦後
県の西部で多く使われているもの。



製品写真(アルバム)
昭和初期
製作した製品を撮影したもの。

株式会社 高田卸方屋

かぶしがいいしゃ たかたおろしかたや

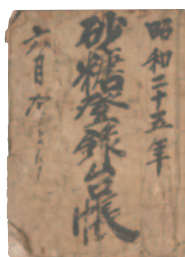
業種／人形製造販売 創業／天保11年(1840年) 所在地／高岡市坂下町83

油町(現京町)にて創業し、地元にはないものを東京、大阪、京都、名古屋などより仕入れ、県西部一帯に販売していた。

品目は、砂糖、菓子、雑穀、水飴などの食品から、マッチ、キセル、ろうそく、玩具人形などの雑貨まで、時代によっても変化した。明治期に、現代の総合スーパーの意味をこめて「卸方屋」の屋号を定める。

明治2年に、坂下町に移転。現在地には、昭和15年に移転。

昭和35年、高度経済成長により、取扱品目を玩具、人形に絞り込み、平成6年に玩具部門を分社化している。



砂糖登録台帳
昭和25年
各町内ごとに配給実績の記録。



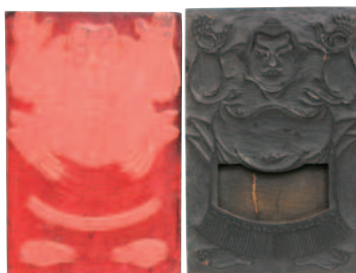
看板(名物菓子)
明治期／51.0×29.5
近所の職人に作らせて県西部全域に販売。



褒状
明治40年代
38.7×53.5
産業博覧会で入賞、その後審査員に委嘱される。



嵐の下絵・版木一式
明治期
41.0×49.0(下絵)
奴の絵柄
3代 高田栄次郎が自ら刷る。



嵐の下絵・版木一式
明治期
41.0×29.0(下絵)
相撲とりの絵柄
3代 高田栄次郎が自ら刷る。



版木
明治期

株式会社 高岡ホテル

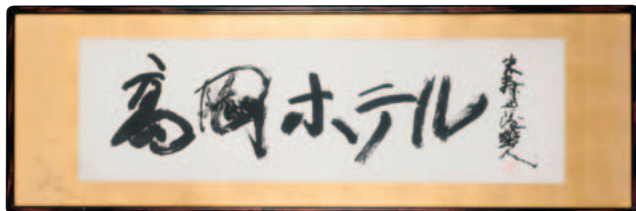
かぶしがいいしゃ たかおかほてる

業種／料理旅館 創業／明治38年(1905年) 所在地／高岡市本町3-20

明治38年、現在地にて開業。景望楼とも呼ばれ、高岡における格式ある旅館としての地位を確立する。

昭和25年、深田庄吉が同ホテルを再興し、戦後の歴史が始まる。庄吉は、昭和6年に個人商店を開業し、その後宮脇町で不動産商事株式会社を経営(昭和24年商号変更)。翌26年に開催される高岡産業博覧会のため、戦後休業していたホテルの再開を要望された。昭和38年には新館を落成している。

皇族の方々が宿泊され、著名人にも愛されてきた歴史を持つ。昭和54年に2代良作、平成4年に加代氏が継承している。



ホテルの額
昭和46年／59.0×177.0 北村西望が米寿(88歳)の時に執筆した額。



名入り旗
昭和40年代
停車場で客の出迎え用に使用。



河童の原型
昭和30年代
先々代社長が射水神社境内に寄進し、玉垣造成の折に引き取る。

竹林商店

たけばやししょうてん

業種／総合室内装飾 創業／文化8年(1811年) 所在地／高岡市坂下町65

創業は、文化8年(1811)か、それ以前。当初は、油紙の製造をしていた。その技術で、雨具等にも加工をし、地元はもとより、北前船にて北海道やその他の地にも販売していた。その当時は、能登より職人や奉公人が来ていたという。

油紙の製造からテント地、そしてビニール系商品、化学繊維商品へと取扱商品も変化し、昭和43年頃より総合インテリア分野へと進出した。

明治の初め頃には、現在地の坂下町にて営業している。屋号は、「㊤(まるき)」。現在の当主は、8代目になる。



店頭写真
昭和初期
戦前の坂下町自店前(すずらん通りと呼ばれていた)。



看板「キング印代理店」
昭和初期
39.0×45.0
東京の雨具防寒具メーカーからの特約店看板。

提灯
昭和初期
高80.0 径40.0
坂下町の祭礼や、弔事の折に使用した提灯。



株式会社 谷道

かぶしがいしゃ たにみち

業種／OA事務機器・家具・文具 創業／明治28年(1895年) 所在地／高岡市問屋町109

初代岩治郎が、小間物、巻紙などの行商を始め、定塚町にて谷道商店を開業した。明治34年に、坂下町に移転。初代が日露戦争より戻ると、創業当時の「黒田表紙店(現コクヨ)」と取引を開始し、雑記帳の製造販売などを行う。

大正4年に小馬出町に移転し、昭和4年、西洋建ての店舗を新築。24年に、株式会社谷道文開堂として法人化。2代義正は、43年に富山市問屋町に株式会社富山コクヨを設立する。46年に、高岡問屋センターへ入居。3代巖が、社名を株式会社谷道とした。現在は、4代俊雄氏が継承している。



問屋 谷道岩次郎 引札
明治期／49.5×37.0
高岡市坂下町



暖簾
明治期／137.0×54.0
帆布製 谷道商店



看板「ヤマト糊」
大正12年／64.0×100.5
日本政府意匠登録 特約店
谷道文開堂本店



看板「開明墨汁」
昭和初期／61.0×92.0
商標登録 発売元は田口商会本店で谷道商店が富山県一手販売。



ホーロー看板
「エリオット理想万年筆」
昭和初期／30.0×45.0
両面看板



ホーロー看板
「ダイヤモンドインキ・ウエル万年筆(裏面)」
昭和初期／33.0×45.0
両面看板



宣伝用万年筆
昭和初期／78.0 セーラー万年筆

槻橋屋

つきはしや

業種／和ローソク製造販売 創業／明治元年（1868年） 所在地／高岡市旅籠町42

もとは加賀藩の下級武士であったが、江戸末期に禄がなくなり、金沢から高岡町に来て明治元年に創業した。当初の屋号は、「ばんば屋」。

初代貞次郎は、山を買い、椿油を製造・販売して財をなした。その後、和ろうそく、髷付け油を製造するようになった。

昭和25年より屋号を「つきお商店」に変更。昭和45年から現在の「槻橋屋」とした。

県内でも数少ない和ろうそく屋で、勝興寺の1.8mのデカローソクなどを製造している。

(左より)

看板「桃印マッチ特約販売店」

昭和初期／90.0×18.0

マッチは家庭の必需品であった。

看板「サンゴ錨印洋蠟燭」代理店

昭和初期／121.0×24.0

洋ローソクが出回り始めた頃のもの。

看板「高岡家庭用雑貨小売統制組合
蠟燭部荷扱所」

戦時中／90.0×18.0 物資の統制が行われた。



株式会社 中川金物

かぶしきがいしゃ なかがわかなもの

業種／建築板金工事・金物販売 創業／明治元年（1868年） 所在地／高岡市大手町2-22

明治元年、大手町に中川長三郎商店として創業する。

板金技術に優れ、ブリキ加工品を製作。米びつ、ちり取り、バケツ、角燈、茶筒など、さまざまな日用雑貨を製作し、県西部に卸していた。かつては、リヤカーを用いて運んでいたという。

高岡で最も古い板金屋であり、ここで板金技術を習い、独立した板金業者も多い。

現在では板金加工から建築板金へ、金物卸売から販売へと分野を広げている。屋号は、**長**。



銭函

明治期／高30.0 幅46.0 奥行27.0
店先で使用していた。



各種板金加工品

昭和30年代
蔵の中に仕舞ってあったので新品同様。



トタンの折り曲げ機械
戦前
板金加工で穴あけや丸み
を出すための道具。

(上) 高58.0
幅70.0 奥行35.0

(左) 高67.0
幅47.0 奥行36.0

中川サイクル

ながわさいくる

業種／自転車販売 創業／慶応3年（1867年） 所在地／高岡市坂下町1213

慶応3年（1867）、3代中川忠平が仏具銅器商を継承し、定塚町2丁目において営んでいた。明治29年、コロンブス大陸発見400年を記念して開催されたシカゴ万博に、高岡銅器の作品を出品している。

明治33年の高岡大火により、現在の坂下町に移転。明治38年、庄二郎は、自転車業に転業する。当時、自転車は貴重品で富裕層の乗物であった。以来、現在まで自転車商を営んでいる。自転車は、大正時代に急速に普及し、戦後は、子ども用・女性用などが伸びていった。



諸事控

昭和5年

当時の自転車は高級品で、その当時の納入先や修理状況を記入。



看板「自転車」

昭和初期

46.0×117.0

大阪へ出向いた折に、路上で無名の書家に書いてもらったもの。

西田菓舗

にしだかほ

業種／和菓子製造販売 創業／明治14年（1881年） 所在地／高岡市旅籠町25

初代西田小平は、米相場で活躍していたが、2代直次郎は、現在地の旅籠町で和菓子店を開業した。創業は、明治14年である。

主な取扱い商品は、大仏酒香饅頭で、その味わいは地元の人々に長く愛されている。



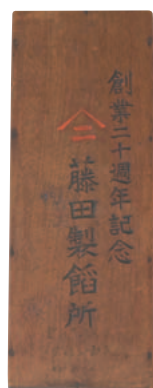
お重 明治後期

(外箱)

高50.0 幅29.0

奥行29.0

注文の品を納めて届けたお重。



算盤(表・裏)

昭和初期／11.0×30.0

仕入先の創業20周年の記念品。



包装紙

昭和初期

39.5×54.5

現在でも使用。

能登総合燃料店

のとそうごうねんりょうてん

業種／木炭・白灯油・LPガス 創業／明治25年（1892年） 所在地／高岡市川原本町10-39

江戸時代より、現在地の川原本町にて、代々荒物屋を営んでいた。初代豊次郎が、明治25年頃に、炭、薪、塩、たばこの販売を始め、これが現在の業種の創業となる。

高岡の鋳物発祥の地である金屋町が近いため、鋳物の工房に炭などの燃料を納めていた。

昭和38年頃に、生活環境の変化に合わせて、灯油・ガスが取扱い商品に加わる。現在の当主は4代目。荒物屋時代からは11代目になる。



天秤はかり
明治期
長さ145.0
塩を量るため使用していた。



高岡商業新報
明治32年2月20日号

平田印刷 株式会社

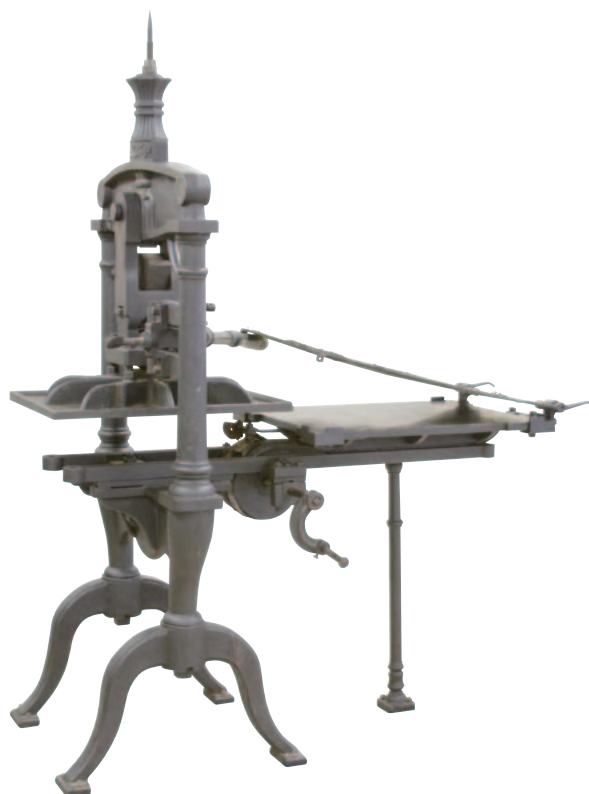
ひらたいんさつ かぶしがいいしゃ

業種／印刷業 創業／明治38年（1905年） 所在地／高岡市野村1485

明治38年に、初代平田彌太郎が御馬出町に平田活版所を創設する。大正8年に、石版印刷（色刷り）に着手した。

終戦から間もない昭和20年10月、宮脇町に工場を移転し、オフセット印刷を開始する。これは、現在でも代表的な印刷方式である。

昭和45年に株式会社に改組し、翌年に野村に本社、工場を新築・移転した。平成8年に、デジタル化に対応して、システム室を開設。カラー製版業務に進出している。現在は4代一彌氏が社長を務める。



手押し活版印刷機
明治38年
高170.0 幅140.0 奥行70.0
処理スピードは、熟練工で1時間に180枚。

有限会社 堀栄

ゆうげんがいしゃ ほりえい

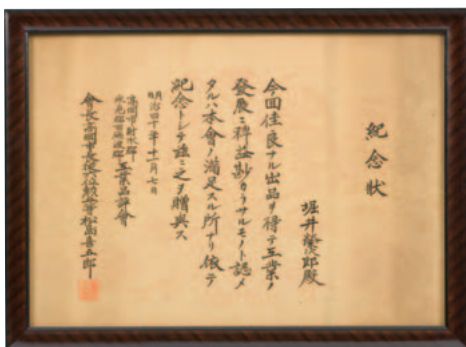
業種／銅器鋳造業 創業／明治26年(1893年) 所在地／高岡市戸出栄町54-4

創業は、明治26年。二番新町にて、鍋や釜の鋳造を始めた。同家には、創業承認書が、今も伝わる。

やがて、仏具の製造を手掛けるようになり、さらに置物も製作する。現在は、仏具・置物が主要製品である。

昭和40年には、皇居新宮殿の瑞鳥仕上製作に従事し、感謝状を贈られている。平成8年に、4代栄翠(堀井 茂)が、高岡市の伝統工芸部門の功労者表彰を受けている。

現在は、戸出の高岡銅器団地にて営んでいる。



紀念状
明治40年
工業品評会
より授与。



創業承認書
明治26年
富山県高岡市役所より。

寺院用仏具(底鏡張り)
戦時中／高24.0 径18.0
材料不足からか、地金の銅鏡を加工して底の部分に貼り付けた。

山元醸造 株式会社

やまげんじょうぞう かぶしがいがいしゃ

業種／味噌・醤油醸造業 創業／安永元年(1772年) 所在地／高岡市横田町2-6-8

安永元年(1772)に、室屋長兵衛が現在の横田町にて、麴屋を創業。後に、味噌・醤油の製造を始め、家業として代々継承してきた。

昭和26年に、株式会社設立に伴い、社名を山元醸造株式会社とする。「山元」は、当時の当主、山本元次郎の名に由来。現在の社長は、8代山本衛氏。

蔵の中には人の背丈より大きな木桶が並んでおり、今も現役で使用されている。



こうじおり 戦前／54.0×25.0
麴を発酵させる容器 昭和40年頃まで使用していた。



雪ぞり
戦前
冬期の運搬具として
使用していた。



權突棒
(かいつきぼう)
戦後／長さ85.0
醤油もろみをかき混
ぜるための道具。



唐箕(大豆専用)
風を利用して、原
料の大豆を選別
する道具。

株式会社 山内神仏具店

かぶしがいいしゃ やまうちしんぶつぐてん

業種／神仏具製造販売 創業／寛永2年(1625年) 所在地／高岡市末広町8

寛永2年(1625)創業である。代々山内吉平を襲名しているが、初代山内吉平は、銀細工師であった。姫君のかんざしや銀の耳搔き、寺社の金具、飾り金具などを製作した記録が残る。

創業は、御馬出町であったが、明治33年の大火により現在の末広町に移った。当初は、銅や真鍮製の金灯籠や飾り金具を製作。江戸時代末期より仏壇・仏具・神棚の製造を始める。



銀細工のかんざし

江戸時代 姫君が愛用した珊瑚入りかんざし。



御車山等の飾り金具

明治後期

一番街通車輪に山内吉平の名入り。



曳山飾り金具の下図巻物

明治後期

通町 長押金具下図



城端別院(善徳寺)の見積書、設計書

大正12年

城端別院世話方総代宛



曳山金具絵図



井波別院(瑞泉寺)の柱金具下図

大正時代

井波別院太子堂再建のときに見積り。

株式会社 やまはち

かぶしがいしゃ やまはち

業種／神仏具製造・寺院用仏具 創業／明治2年(1869) 所在地／高岡市長慶寺1000

初代山本八左衛門は、山川から下桶屋町(現大町)に移り住み、質屋を営んでいた。その後、銅器屋に弟子入りし、明治2年に鑄造業を創業する。

当初は、型を焼いて鑄造する焼型鑄造を行っていたが、2代八左衛門が、昭和2年に生型鑄造を完成させたことにより、量産が可能となった。

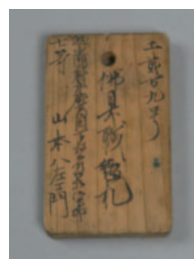
戦時中は、舞鶴海軍工廠に製品を納入していたという。戦後は、メタリコン製品も手掛け、後に仏具鑄造を再開する。昭和42年に長慶寺に移転。現在は、4代目が継承している。



売上帳 明治中期 当時の得意様台帳。



法被
大正時代
お祝い事の時に着用したもの。



石川県射水郡の鑑札
明治初期
石川県射水郡役所より
交付された仏具師の鑑
札(許可証)。

鷺北機工具店

わしきたきこうぐてん

業種／機械・工具・金物販売 創業／天保12年(1841年) 所在地／高岡市内免4-6-43

初代鷺北喜右衛門が、天保12年(1841)に桶屋町(現大町)にて鋸の鍛冶として創業した。

その後、大正年間に鷺北理之助を名乗る。これは、新潟県三条の5代中屋伊之助の弟子となり、理之助の名をもらったことによる。地子木町(現五福町)へ移転し、2代理之助の時、昭和41年に現在の内免4丁目に移転した。

この間、鋸製造から大工道具、刃物、金物へと取扱い商品が変わり、現在は機械・工具・金物の販売を行っている。



「東鳥かん」看板
大正期
44.0×60.5
取次ぎ所用の掛看板。



鋸各種(鋸 穴挽 畦挽等)
明治期～昭和初期
94.0×185.0
明治期から使われていた各種鋸の見本。

和田屋商店

わだやしょうてん

業種／酒類販売業 創業／慶応元年(1865) 所在地／高岡市通町1

通町にある酒類販売店である。現当主の祖父善吉氏が、利き酒を得意としており、明治に入って、酒造業を営むようになったと伝わる。併せて、当時は珍しかったビールの卸売り業も手広く行った。

昭和10年代になり、物品の統制が始まると酒造業や卸業が難しくなったため、以来小売業を続けている。

明治後期に、海外の博覧会に出品し、受賞したことを示す看板類が残っている。



看板「精釀味淋・皇朝第一花 九重」
明治後期／60.0×90.0
「高岡市 大販賣所 和田善吉」とある。



大日本優等清酒 商標「北陽一」瓶
明治後期～昭和初期／高77.0
商品の装飾用の一斗用瓶。



通い徳利
大正～昭和初期
和田屋酒店名入れ
5合徳利



さくらまさむねポスター額
明治後期～昭和初期／118.0×87.0
取り扱い商品の一つ。
ポスターは好評。



日本酒・醇良清酒「澤の鶴」
ポスター額
明治後期～昭和初期
105.0×75.0
大阪石崎合資会社醸造
摂津灘石崎合資会社醸造
販売促進用

高岡の老舗分布図 (出展事業所のみ)



出品目録（出展事業所50音順）

天野漆器（株）

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	工芸品展覧会優等賞記念朱塗り盃	明治44年(1911)	1点	桐紋入り酒盃
2	東京大正博覧会朱塗り記念盃	大正3年(1914)	1点	天野辰次郎・庄太郎の時代
3	大連勸業博覧会銅牌	大正14年(1915)	1枚	庄太郎の時代
4	法被	明治後期～昭和初期	2枚	替え襟には「漆器商 天野商店」 帯付き 背中に商標
5	むきみかん火鉢	大正期頃	1対	むきみかんの火鉢が高岡独特のデザインで人 気を博す
6	漆塗り出品人木札	大正～昭和初期	1枚	天野辰次郎商店 二丁町昭和通り
7	高岡漆器の栞	昭和30年代～	数種	高岡漆器の歴史や取り扱い方法について製 品に添付
8	高岡新報 昭和14年1月1日	昭和14年	1枚	多木肥料の新聞広告など
9	鯛の菓子器	明治末期～大正	1点	明治末から大正にかけて手くり鯛盆が盛んに つくられた

いせや

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	糸入れ	明治後期～昭和初期	1箱	「一山百文」と記されている
2	銭箱	明治後期～昭和初期	1点	創業時から店先で使用
3	店頭写真	昭和31年	2枚	旧店舗(宮脇町)。この写真が撮影された後、 現在地へ移転
4	糸車・糸巻き	明治期	3点	紬糸を紡ぐのに使用していた
5	昭和初期の末広町の写真	昭和初期	3枚	丸越(現大和百貨店)ができる前とできた後
6	旧店舗の写真	昭和12年	1枚	旧店舗(宮脇町)前で撮影
7	伊勢屋呉服店売出し用のぼり旗	昭和20年代後半	1枚	売出しの際に店先で使用
8	花嫁のれん	昭和初期	1点	高岡といでや染物店へ発注
9	伊勢屋のれん	明治期	1点	正藍染の店頭のれん

(株) 老子製作所

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	出吹き 写真	大正8年	1枚	兵庫県加東郡社町 西国二十五番 御嶽山 清水寺山上にて鑄造
2	擬宝珠	大正4年	1個	7代 老子次右衛門製作
3	鉄飛龍紋香炉	明治末期	1個	6代 老子次右衛門製作

大寺幸八郎商店

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	看板「三協商会」	昭和21年頃	1枚	裏には本日休業の文字
2	薄端、瓶掛、火鉢カタログ写真アルバム	大正～昭和初期	3冊	現在の商品カタログの役割
3	店内陳列写真	大正～昭和初期	1枚	現在のショールーム。当時としては珍しい
4	家紋入り暖簾	戦後	1枚	この他にも暖簾、風呂敷多数所有
5	名入れ提灯 提灯箱	江戸後期～明治初期	3組	大小を含めば、これ以外にも多数残る
6	風呂敷	昭和初期	3枚	当時商品を包んでお客様に届けた
7	新旧店舗写真額	大正期 現在	1枚	同じ角度からの撮影
8	訂正早字引	明治初期	1冊	現在の辞書
9	献上吊燈籠	昭和16年	1組	製作の木型が残る

(株)大野屋

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	引札	明治17年	3枚	暦入り営業広告 お客様へ配布
2	金華糖用菓子木型	明治期	3組	恵比寿 大黒 さざえ 竹の子 招き猫
3	落雁用菓子木型	明治期	5点	丸に木瓜 丸に蔦 丸に抱き柏 丸に橘 剣片喰
4	菓子卸売営業免許鑑札・菓子仕入れ鑑札	明治18年	1点	この頃に始まった菓子税納税の関係で、大日本帝国政府より大野重吉へ
5	菓子仕入れ鑑札	明治18年7月	1点	富山県射水郡役所より

(株)岡本清右衛門商店

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	書額「無尽蔵」(隠元禅師書)	江戸中期	1枚	江戸後期、瑞龍寺山門改修の功勞として寺より贈られた
2	「多木肥料」美人画ポスター(復刻)	平成年代	1枚	急激な人口増加も、当社の化学肥料で食糧増産が賄えるとのコピーがある
3	多木肥料の年賀状絵柄ポスター	明治期	1枚	特約店に配布を依頼した年賀状の絵柄ポスター
4	売薬版木「御薬品々入」「葛根湯」	明治期～大正期頃	2枚	(高岡市立博物館蔵)
5	売薬懸場帳	昭和初期	3冊	各方面ごとに得意先の詳細情報を記入
6	多木肥料年賀葉書	明治期	2枚	多木肥料が特約店に配布を依頼した年賀状
7	坪刈成績表	昭和10年	2枚	化学肥料の効果を確かめるための坪刈記録(田んぼ1坪の穂の実績)
8	取引先の名刺・封筒	大正 昭和	20枚	取引先は兵庫、大阪、京都の関西方面
9	新潟硫酸株式会社絵葉書		2枚	過燐酸・配合肥料 完全肥料の新潟硫酸(株)の広告と工場写真
10	多木肥料休息所写真		1枚	

(有)角久旅館

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	法被	大正期	1枚	当家の娘が嫁入りの時、道具人足が着た法被。お目出たいときのみ着用
2	高岡宿屋専業組合 営業人力車賃銭表	大正～昭和初期	3枚	宿泊客へのサービス
3	ふとん		1枚	絞り染めの客用布団
4	外観写真	昭和初期	1点	右にある車は木炭車

金七産業(株)

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	火鉢	昭和初期	1個	満州鉄道開通完成記念品
2	封筒 ハガキ	昭和初期	9枚	国産美術銅器・仏具・各種卸「金森七次郎商店」得意先からの注文連絡
3	出荷帳 本帳 等	大正～昭和初期	4冊	この頃すでに日本全国で取引をしていた記録がある
4	先々代の写真	大正末期	1枚	先々代の記念写真。当時としてはハイカラな傘を持つ
5	原型	昭和初期	1個	銅器置物「養老の滝」

(有)カマキチ

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	貸鍋帳	昭和10年代	3冊	年間契約で鍋を農家に貸し出し、代金は米で物納
2	ハンコ	大正期～昭和初期	2種	萬金物商
3	法被	明治期	1枚	お客さんの接待用に使用
4	瓶掛け用押し型	戦前	24点	大量生産が可能となる
5	表札	大正期～昭和初期	2個	代々釜吉(金森吉左衛門)
6	瓶掛	戦前	1点	当時は大量に生産されたが、石油ストーブ、電気コタツの普及で減少

北一(株)

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	各勘定内訳書	大正年間	7冊	使用人履歴書 給料支払帳 任命原本(附 重役選任録)等
2	給与辞令	明治中期	2枚	俳人「筏井竹の門」が記す
3	特約店看板(綿 石油)各2枚	大正～	4枚	当時の大手企業の日清紡績・倉敷紡績
4	ガソリンスタンド写真	昭和6年	2枚	小馬出町で営業

(株)北林大佛堂

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	毎日香看板	戦後	1枚	日本香堂の前身である東京孔官堂の代理店
2	商品袋	戦後	6枚	京都の第一紙行で製作

(株)木屋

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	看板「キリン麦酒株式会社高岡荷捌所」	昭和16年	1枚	
2	拍子木	明治33年	1組	「火の要心」と書いてある
3	店頭写真	大正11年	1枚	2代 市左衛門葬儀
4	特大ボトル	昭和7年 複製は57年	2本	キリンビールが戦前に使用。改めて復刻された

京田仏壇店

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	「京田仏壇製造商」看板	明治中期	1枚	漆塗り店名看板
2	塗り仏壇	大正後期	1点	勇助塗で、数多く高岡で作られていた
3	作理鉋・矢立	明治期	12点	初代吉郎右衛門愛用
4	経机等の下図	明治期	3冊	初代吉郎右衛門が作成した下図
5	飾り長押	明治期	6点	仏壇内部の部品
6	規型	明治期	24点	仏壇や仏具製作用の部分木型
7	仏壇素地協定価格表	昭和16年	1枚	高岡仏壇素地工業組合
8	仏壇出入帳 寸法帳等	明治29年	3冊	各作業工程ごとの職人名及び価格

(有)清都酒造場

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	ホーロー看板	昭和20年代	1枚	勝駒看板 販売店に配付
2	通い桶	戦前	2点	ガラス瓶が普及するまでの少量容器
3	酒造り道具	昭和初期	3点	もろみをかき混ぜるための道具
4	徳利	戦前	2点	名入り徳利 一升・二升入り

(株)小泉製作所

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	原型(鯛 恵比寿 寿老人)	未確認	3種	
2	感謝状	昭和17年	1枚	多額寄付に対する高岡市長木津太郎からの感謝状
3	石膏押し型	未確認	1個	
4	薪炭御帳	大正15年以降	13冊	燃料仕入先の中村商店発行
5	古文書 手紙	明治期～昭和	9種	作業日記帳 御通

小間印刷(株)

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	メモ帳		1点	町内専福寺にて
2	高岡発汽車時間表・昭和4年休日表	昭和4年	1枚	石版印刷による
3	國乃光 第1号	大正10年	1冊	川原町 國乃光社発行 高岡市の情報、一般知識や雑学、市内小学生の文集も盛り込んだ当時の情報誌
4	孝子六兵衛の傳 コピー	明治36年	1冊	高岡中央図書館に原本
5	孝子六兵衛の傳 再版	昭和10年	1冊	修訂3版
6	孝子六兵衛のお話 再版	昭和54年	1冊	

ベビープラザ サカキヤ

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	金銭登録器(レジスター)	大正初期	1点	大正初期から昭和42年まで使用
2	第1回店頭装飾競技会賞状 照明コンクール賞状	大正14年	3枚	4等賞 他
3	集金帳	大正7年	1冊	売り掛け 住所 氏名が記載
4	判取帳	昭和18年	1冊	
5	ライオン歯磨きの箱	大正	1点	販売していた商品のケース
6	子供用ゴーカート	昭和40年代	1台	店頭販売品
7	自転車(新品)	昭和40年代	1台	店頭販売品

塩崎商衡(株)

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	道具屋利兵衛鑑札	嘉永4年(1851)	1枚	商売をするための免許証あるいは許可証
2	天秤はかり	江戸期	1台	分銅20個が現存する
3	度量衡販売免許	明治13年(1880)	1枚	石川県より塩崎利平宛
4	セントルイス万国博覧会銀賞賞状	明治37年(1904)	1枚	高岡銅器組合 塩崎利平受賞
5	セントルイス万国博覧会金賞銀賞の褒賞	明治37年(1904)	2点	博覧会受賞金牌 銀牌
6	達磨大師龍唐子之下図及び現物	明治期	各1点	下図は塩崎商衡、現物は高岡市美術館蔵
7	明治の銅器商の店頭写真	明治期	1枚	暖簾に「金物類 塩崎店」とある
8	象嵌銅花瓶	明治末期	1点	底に塩崎製の落款有り
9	万国博覧会報告書	明治39年～大正期	7冊	博覧会参加の度に作成された報告書
10	電話開通記念の封筒及びハガキ	明治40年	1組	高岡で電話が開通したときの記念絵葉書と日付入りの封筒
11	道具屋利兵衛 印	明治期	3点	越中高岡印 3種

(株)志甫商店

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	看板(小供印)	明治後期	1枚	染質堅牢 小供印 専用商標 発売元志甫商店
2	家紋(花菱)付提灯入れ・提灯	明治後期	1組	提灯に志甫三郎平の名入れ
3	看板「紅富士 小富士」	大正後期	1枚	関西捺染株式会社製品 株式会社丸紅商店特約 志甫商店
4	まんが道 挿絵(漫画本)	昭和	1冊	藤子不二雄著作本「まんが道」の中に店の 正面の挿絵
5	写真(嫁入り 葬式 日常生活)	明治～昭和	4枚	5代 志甫三郎平の葬儀 8代婚礼
6	写真(取引先の招待宴会)	戦前	1枚	志甫商店の新年会
7	写真(5代 志甫三郎平と町内衆との記念写真)	明治期	1枚	当時の経済界の重鎮が1枚の写真に
8	第5回国内勧業博覧会入場パス	明治36年	1枚	博覧会の役員として参加
9	木綿染地卸問屋 名入巻き板	明治期	1枚	小巾反物(呉服)の巻き板
10	看板(NANIWA ASAHI SHIRUSHI)	明治期	1枚	学生服のブランド 富山県の総代理店
11	看板(株式会社志甫商店)	昭和20年代	1枚	昭和26年に法人化
12	木綿染仕入屋合札	元治元年	1枚	高岡の木綿染物業界の年行司鑑札

(有)白石縫旗店

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	店頭写真	昭和初期	1枚	当時の店の前
2	製品写真(アルバム)	昭和初期	1冊	製作した製品を撮影したもの
3	型紙 下図	戦前	多数	烏帽子を製作する際の下図、型紙
4	獅子舞衣装(大人 子供)胴幕 幟旗	戦後	1式	県の西部で多く使われているもの

(株)高岡ホテル

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	下駄	戦前	1足	屋号入りの雪下駄、宿泊客が庭の散歩などに 履く
2	歌詞カード(歌のしおり)	昭和40年代	9冊	宴会の席でお客様と共に歌う時に使用
3	やかん	昭和40年代	1点	当時は軽くてとてもハイカラな道具。火鉢やス トープ上で使用
4	蠟燭立て	昭和30年代	6点	よく停電があり、宴席のかもいに掛けたり手燭 として使用
5	ホテルの額	昭和46年	1枚	北村西望が米寿(88歳)の時に執筆した額
6	名入り旗	昭和40年代	2枚	駐車場で客の出迎えに使用
7	河童の原型	昭和30年代	1点	先々代社長が射水神社境内に寄進し、玉垣 造成の折に引き取る

(株)高田卸方屋

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	看板(名物菓子)	明治期	1枚	近所の職人に作らせて県西部全域に販売
2	版木一式	明治期	8点	風の下絵の版木
3	砂糖登録台帳	昭和25年	1冊	各町内ごとに配給実績の記録
4	褒状 謝状	明治40年代	2枚	産業博覧会で入賞、その後審査員に委嘱さ れる
5	風の下絵	明治期	2枚	相撲とり・奴の絵柄 3代 高田栄次郎が自ら 刷る

竹林商店

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	店頭写真	昭和初期	1枚	戦前の坂下町自店前 (すずらん通りと呼ばれていた)
2	各種台帳	昭和初期	4点	売り掛け帳で、かつてのお店や製造業者の名がある
3	提灯	昭和初期	1点	坂下町の祭礼や、弔事の折に使用した提灯
4	看板「キング印代理店」	昭和初期	1枚	東京の雨具防寒具メーカーからの特約店看板

(株)谷道

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	問屋 谷道岩次郎 引札	明治期	1枚	高岡市坂下町
2	暖簾	明治期	1枚	帆布製 谷道商店
3	ホーロー看板(ダイヤモンドインキ・ウエル万年筆)	昭和初期	1枚	両面看板
4	ホーロー看板(エリオット理想万年筆)	昭和初期	1枚	両面看板
5	宣伝用万年筆	昭和初期	1点	セーラー万年筆 長さ78cm
6	看板「ヤマト糊」	大正12年	1枚	日本政府意匠登録 特約店 谷道文開堂 本店
7	看板「開明墨汁」	昭和初期	1枚	商標登録 発売元は田口商会本店で谷道 商店が富山県一手販売
8	暖簾の言われ書き	明治期	1枚	谷道岩次郎が作成

槻橋屋

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	看板「サンゴ錨印洋蠟燭」代理店	昭和初期	1枚	洋ローソクが出回り始めた頃のもの
2	看板「高岡家庭用雑貨小売統制組合 蠟燭部荷扱所」	戦時中	1枚	物資の統制が行われた
3	看板「桃印マッチ特約販売店」	昭和初期	1枚	マッチは家庭の必需品であった

(株)中川金物

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	各種板金加工品	昭和30年代	13点	蔵の中に仕舞ってあったので新品同様
2	トタンの折り曲げ機械	戦前	2台	板金加工で穴あけや丸みを出すための道具
3	銭函	明治期	1点	店先で使用していた
4	前田利長パネル	平成20年	1枚	開町400年に併せて新たに作成

中川サイクル

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	看板「自転車」	昭和初期	1枚	大阪へ出向いた折に、路上で無名の書家に 書いてもらったもの
2	諸事控	昭和5年	2点	当時の自転車は高級品で、その当時の納入 先や修理状況を記入

西田菓舗

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	お重	明治後期	1組	注文の品を納めて届けたお重
2	算盤	昭和初期	1点	仕入先の創業20周年の記念品
3	包装紙	昭和初期	3枚	現在でも使用

能登総合燃料店

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	高岡商業新報	明治32年	1枚	明治32年2月20日号
2	天秤はかり	明治期	1個	塩を量るために使用していた

平田印刷（株）

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	手押し活版印刷機	明治38年	1台	処理スピードは、熟練工で1時間に180枚

(有)堀栄

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	記念状 感謝状等	明治40年代	5枚	各地物産品評会より授与
2	創業承認書	明治26年	1枚	富山県高岡市役所より
3	寺院用仏具(底鏡張り)	戦時中	1点	材料不足からか、地金の銅鏡を加工して底の部分に貼り付けた

(株)山内神仏具店

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	銀細工のかんざし	江戸時代	4点	姫君が愛用した珊瑚入りかんざし
2	御車山等の飾り金具	明治後期	18点	一番街通車輪に山内吉平の名入り
3	曳山飾り金具の下図巻物	明治後期	2点	通町長押金具
4	木舟町の御車山の金具の設計書	明治41年	1式	木舟町曳山惣代宛
5	井波別院の柱金具下図	大正時代	1枚	井波別院太子堂再建のときに見積もり
6	城端別院の見積書 設計書	大正12年	5枚	城端別院世話方総代宛
7	井波別院瑞泉寺太子堂柱根巻金具写真パネル		1枚	山内吉平の名入り
8	一番街通 御車山車輪金具写真パネル		1枚	山内吉平の名入り

山元醸造（株）

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	こうじおり	戦前	1点	麴を発酵させる容器 昭和40年頃まで使用していた
2	桶	戦後	2点	原材料や道具の洗浄に桶を使用していた
3	法被	明治期	数点	めでたいときに着用 最近、会社創立記念で復刻
4	電柱広告看板	昭和30年代	1枚	ヤマゲン・みそ しょうゆ(北電の承認済証)
5	木樽	平成	2点	醤油樽として使用
6	櫛突棒(かいつきぼう)	戦後	1点	醤油もろみをかき混ぜるための道具
7	雪ぞり	戦前	1点	冬期の運搬具として使用していた
8	唐箕(大豆専用)		1点	風を利用して、原料の大豆を選別する道具

(株)やまはち

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	石川県射水郡の鑑札	明治初期	1枚	石川県射水郡役所より交付された仏具師の鑑札(許可証)
2	売上帳	明治中期	5冊	当時の得意様台帳
3	法被	大正時代	1点	お祝い事の時に着用したもの

鷺北機工具店

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	「東鳥かんな」看板	大正期	1枚	取次ぎ所用の掛看板
2	鋸各種「鋸 穴挽 畦挽等」	明治期～昭和初期	3点	明治期から使われていた各種鋸の見本

和田屋商店

	展 示 物	時 代	員 数	備 考
1	看板「精醸味淋・皇朝第一花 九重」	明治後期	1枚	「高岡市 大販売所 和田善吉」とある
2	日本酒・醇良清酒「澤の鶴」ポスター額	明治後期～昭和初期	1枚	大阪石崎合資会社醸造 摂津灘石崎合資会社醸造 販売促進用
3	通い徳利	大正～昭和初期	4本	和田屋酒店名入れ 5合徳利
4	大日本優等清酒 商標「北陽一」瓶	明治後期～昭和初期	1本	商品の装飾用の一斗用瓶
5	さくらまさむねポスター額	明治後期～昭和初期	1点	取り扱い商品の一つ ポスターは好評
6	看板「博士葡萄酒」	明治後期～昭和初期	1点	薬用強壯 美味滋養 トレードマーク入り

参考文献

- | | | |
|----------------------|-------|---------------|
| 『高岡市立博物館 常設展 ガイドブック』 | 2009年 | 編集・発行 高岡市立博物館 |
| 『企画展 高岡の老舗』 | 2004年 | 編集・発行 高岡市立博物館 |
| 『加越老舗百年』 | 1996年 | 編集・発行 高岡市立博物館 |
-

高岡開町400年記念「高岡老舗100年展」

発行日 平成21年8月1日

企画・発行／高岡商工会議所 高岡老舗会

〒933-8567 富山県高岡市丸の内1-40

TEL 0766-23-5000 FAX 0766-22-6792

URL <http://www.ccis-toyama.or.jp/takaoka/>

デザイン・編集／株式会社アキデザイン

印刷／平田印刷株式会社

高岡開町400年記念
高岡老舗100年展

会期：平成21年8月1日[土]～10月18日[日]